とを講じて、着々其の目的に向ひて邁進し、又寸壤尺地の微と雖も之を等閑に附すること無し。新疆の如き又彼が多年垂涎する所にして、之が爲めには新疆の死命を制し在る伊犂を併呑するの最も捷路たるべきは、彼が既に看破したる所ならざらんや。往年露國が回教徒の騒亂に乘じて、伊犂一帶の地方を占領し、後、里瓦齊亞（リワシヤ）條約を訂結するに際し、種々の條件を提出して、占領地の還附を快諾せざりしは、適、以て露國の伊犂に對する野心の存する所を觀るに足るべし。當時里瓦齊亞條約の批准に反對したる左宗棠が奏議中、左の一節あり。曰く、『曩に中國、露國と相接せず、蒙古、哈薩克、布魯特、浩干を以て遮蔽間隔を爲せしに、露國は種々の口實を設けて、彼等を誘惑し、遂に之を領有し、益〻邊境を開拓して、中國と相接し、復た隔絶する所なきに至れり。道光の中葉以降、泰西各國の船舶、中國の近海に横行し、後、長江に闖入せりと雖も、其の求めんと欲する所は、通商口岸の一事に過ぎず、何ぞ敢て土地を利せんとするに在らんや。獨り露國は僅に天山の北幹を隔てゝ、前に準噶爾及回部と雜居せる哈薩克、布魯特、浩干等の部落を見て、以て既に其の有とす』云々。露國の隱謀を道破して餘ありと謂ふべし。李鴻章の如きは、露國の假裝的强硬の態